

女夫石遺跡発掘調査速報

No.19

平安時代はちょっとお休みで、縄文時代にもう一度戻りましょう！ということで、あの大きな石の周りの様子はどんな風になったのでしょうか？発掘調査を始める直前はちょっとしか頭が出ていなかった岩、これがなんとも大きくて見栄えのする岩だったのです。そんな様子を紹介します。女夫石縄文人の感覚と現代人の感覚が一緒とはいえませんが、でもきっと共通する部分もあるはず・・・。



最初はこれだけしか見えてなかったんだけど、女夫石縄文人がこの場所に住み始めた頃は、下の写真のように大きな岩だったのです。しかも、周りのいしよりも目立つくらいとても大きいのです。何だかお祈りでもしたくなるような大きさです。ただ、女夫石縄文人が同じように感じていたかは分からないですけどね！



沢リ：本当に掘り進んだね。地面がすごく下がったもんね！発掘している皆さんの力って偉大だな～！

マキ：最初の頃はちょっとしか見えていなかった岩もこんなに大きく見えてきたよ。こんなに大きな岩だったとわろわろ思わなかったな～。

沢リ：最初の頃は「馬鹿笑い土器」（縄文時代中期後葉の最後・曾利V式）が中心に出ていたのに、一番下の地層からは文様が立体的な土器（縄文時代中期中葉の最後・井戸尻式）が出ているんだよね。ずいぶん長い間この岩の周りには土器などが捨てられたんだね！

マキ：土偶もすでに50点近く発見されているみたいだし、穴ぼこだらけの蜂巣石もあれば、石棒なんかもある。なんだかとても不思議な場所だよな！

沢リ：女夫石縄文人がこの場所に土器などを捨て始めた頃、この岩に接して、石で四角く囲んだ跡も出ているんだってさ。一体何のためなんだろうね？囲まれた中からは特に変わったものなどは出ていないらしいけど・・・。

マキ：やっぱり、ただ単に土器なんかを捨てたんじゃないやなくて、何かお祭でもしたんだよ。火を使ったような跡も出ているみたいだし、火を焚いて岩の周りで何かを祈って祭りをしたんだよ。

沢リ：そうなのかな～。でも何となくそんな気もするけど・・・。確認はないな～・・・。(つづく)



大きな岩の周りからは現在までに約50点の土偶が発見されています。当然一時期に土偶がこの場所に持ち込まれたわけではないですが、この岩の周辺に集中しているので、やはりこの岩を意識していたのではないのでしょうか？女夫石縄文人の心を正確に知ることは困難ですが、少しでも近づけたように思うのは、担当者の勝手な思い込みなのですかね？